

実際の入試問題を使って、この講座の効果をご説明します

## 医療現場リアル No.2

# 患者とのコミュニケーションを"Bad News告知"から学ぶ — SPIKESプロトコルの実践

★ 清光学院の講師は、実際に患者への病名告知・予後説明を行ってきた医師です。「悪い知らせを伝える」場面の緊張・倫理的葛藤・患者家族の反応を当事者として経験しており、その実践知がこの講座の根拠になっています。

### 1. この講座が有効な入試問題のタイプ

#### ① 医師-患者コミュニケーションを問う小論文

「インフォームドコンセントとは何か」「患者への説明で大切なことは何か」という小論文は医学部で頻出である。SPIKESプロトコルという具体的な枠組みを知っている受験生は、抽象論ではなく実践的な論述ができる。

#### ② 医療倫理・患者の自律性を問う問題

「患者が治療を拒否した場合どうするか」という問いは、医学部面接・推薦で定番である。Bad News告知の文脈でこの問いを考えた受験生は、自律尊重・善行・無危害の倫理原則を使って答えられる。

#### ③ 医師志望動機に「コミュニケーション」を挙げる受験生向け

「人と話すことが好きだから医師になりたい」という動機に深みを加えるには、Bad News告知の難しさを知ることが必要である。この講座を受けた受験生は、コミュニケーションの「重さ」を言語化できる。

### 2. 具体的な大学・学部との対応

大学・学部	出題の傾向	本講座との対応
医学部全般（小論文）	インフォームドコンセント・患者説明の問題	SPIKESの枠組みが実践的な論述を可能にする
医学部推薦・総合型選抜（面接）	「患者にどう伝えるか」型のロールプレイ・面接	告知プロトコルの知識が面接での具体性を生む
医学部倫理系小論文	患者の自律性・インフォームドコンセントの問題	Bad News告知の実践が倫理的考察の根拠になる
看護・医療系学部（全般）	コミュニケーションと医療の関係を論じる問題	SPIKESの実践知が論述の深みを増す

### 3. なぜ差がつくのか・受講後に期待できる変化

「患者に寄り添うことが大切です」という答えは、医学部採点者には評価されない。授業の詳細な内容はここでは述べないが、受講後には（1）SPIKESプロトコルを自分の言葉で説明できる、（2）Bad News告知の難しさを倫理的な枠組みで論じられる、（3）面接でコミュニケーションの「重さ」を具体的に語れる、という変化が起きる。

医療現場を知る清光学院の講師陣は、医学部入試で「寄り添いだけの答案」と「告知プロトコルを踏まえた答案」の評価の差を採点者として体感してきた。その実感が、この講座の根拠である。